

白菜の種を交流の種に

野々島

白菜は、ほかのアブラナ科の植物と交配しやすいため、良質な種をとるには隔離された場所で育てなければなりません。海に囲まれた浦戸の島は、その条件に合っていたので、大正期から白菜の採種場として良質な種を生産してきましたが、震災では、白菜畑も被災してしまいました。明成高校調理科の生徒や卒業生らを中心とする地域活動グループ「リエゾンキッチン」では、「みんなの白菜物語プロジェクト」の一環として、野々島の畑での「白菜の採種文化の保存活動」に取り組んでいます。昨年9月から畑の所有者で採種農家の鈴木はつみさんたちとともに畑を耕し、今年の6月には、5キロもの種を収穫することができました。明成高校の原田美香さんは、「初めて種をとった時は達成感でいっぱいでした」と語り、木村楨林さんは「作業をしていて、みんなが集まって、つながっているのがすごいと感じました」と活動を振り返ります。



5月には、白菜の菜の花交流会を実施しました



9月から菜の花を植える畑では、夏は枝豆を育てています



原田美香さん(左)と木村楨林さん(右)野々島にもすっかりなじんでいます

若者たちの熱心な活動に鈴木さんは、「初めてなのに、あんなに種がとれるとは思わなかった。びっくりしたねえ」と嬉しそうです。リエゾンキッチンでは、この畑でとれた白菜の種を各地の学校や社会教育施設などに配布し、浦戸との交流の種にしようと、これからも活動を続けていきます。



畑の持ち主、鈴木はつみさん(左)が声をかけ、馬場キミ子さん(中央)、渡辺ハル子さん(右)も作業を手伝ってくれています

島の田んぼで米づくり

寒風沢

市内で、唯一田んぼが残る寒風沢。震災で大部分が浸水したため、田んぼから塩分を抜くための作業を行い、6月に田植えが行われました。田植えを行ったのは、NPO法人浦戸アイランド倶楽部。米づくりで、寒風沢の復興を目指しています。活動に



加藤信助さんは、寒風沢出身で初めて世界一周した日本人、津太夫の子孫です



島津さんの指導のもと、浦戸アイランド倶楽部が田植えを行いました

協力している寒風沢区長の島津功さんは、「津波で田んぼも被災してしまいました。浦戸アイランド倶楽部が田んぼを耕すことで、島の人も米を作る気持ちになってもらえたら」と話してくれました。米づくりに取り組む浦戸アイランド倶楽部の加藤信助さんは、農業経験がまったくない状態からのスタートでした。「震災を経験し、未来へ続く仕事として、農業に興味を持ちました。島の方々に指導してもらって、勉強しながらの作業です。この活動に興味を持ってくれた方や、ボランティアとして参加してくれた方々、そして島の方々の思いのこもった稲なので、秋にはいいお米を収穫して、結果を示したいと思えます」と、意気込みを話してくれました。

菜の花とカキと

朴島

た。浦戸アイランド倶楽部の活動を、島津さんたち寒風沢の人々が見守っています。



朴島区長の尾形さん。「菜の花畑は、今年もきれいに咲いたよ」

朴島も野々島と同じく、白菜の種をとるための菜の花畑があります。今は2軒の家と種苗会社が畑を続けています。また、カキの養殖も始まります。地盤沈下で、大潮の時期には海からの浸水があるなど、まだ災害の爪あとが残る朴島ですが、再建に向けて確実に動き出しています。

浦戸の復興支援に役立っています

NPO法人浦戸フェリーでは、自動車・貨物フェリー「なのはなまる」を運航しています。このフェリーは、塩釜ロータリークラブを通じ、国内外のロータリークラブの尽力で就航したものです。利用には、予約が必要です。

浦戸フェリー予約センター(丸文松島汽船内)
☎365-3611 (9:00~16:00)

問い合わせ先

リエゾンキッチン

(明成高等学校調理科)

☎277-1368 6

浦戸アイランド倶楽部

☎781-1652 2